

TORO®

後ローラブラシキット

Reelmaster® 5210/5410 シリーズ 5インチリールカッティングユニット
および Reelmaster® 5510/5610 シリーズ並びに 6500-D/6700-D 7 インチリールカッティングユニット用

モデル番号 03668

モデル番号 03688

オペレーターズマニュアル

この製品は、関連する全ての欧州指令に適合しています。詳細についてはこの冊子の末尾にあるDOI適合宣誓書をご覧ください。

この後ローラ用ブラシ・キットは、常用型のリールモアに取り付けて使用する専門業務用の製品であり、そのような業務に従事するプロのオペレータが運転操作することを前提として製造されています。この製品は、カッティングユニットの後ローラに付着する刈りかすなどの異物を払い落とすことにより、集約的で高度な管理を受けているスポーツフィールドや商用目的で使用される芝生の刈り上がりの見栄えを向上させることを主たる目的として製造されております。

組み立て

付属部品

すべての部品がそろっているか、下の表で確認してください。

手順	内容	数量	用途
1	必要なパーツはありません。	–	ローラブラシとリールモータの取り付け方向を確認します。
2	必要なパーツはありません。	–	アイドラプーリ・アセンブリの位置を変更します。
3	必要なパーツはありません。	–	ブラシカバーのドレンプラグをはずします。



手順	内容	数量	用途
4	ローラブラシハウジンググルーマなしで使用するためのもの 六角穴ボルト, 3/8 x 1 in グルーマなしで使用するためのもの ローラブラシ・アセンブリ ショルダボルト ベルトカバー/プレートアセンブリ ボルト, 5/16 x 5/8 in スペーサグルーマなしで使用するためのもの 駆動プーリ フランジヘッドボルト、3/8 x 2 in ベルト O リング黄色グルーマなしで、ブラシ・キット 03668 のみで使用する場合のもの シムワッシャ必要に応じてベルトの整列に使用	1 2 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	ローラブラシを取り付けます。
5	必要なパーツはありません。	—	高刈り用ブラシの取り付け

その他の付属品

内容	数量	用途
オペレーターズマニュアル	1	取り付け・ご使用前にお読みください。
パーツカタログ	1	交換部品の注文にお使いください。

注 前後左右はカッティングユニットを後ろからみた時の方向で表します。

重要 後ローラ用ブラシキットは、刈高が 6-25 mm の範囲でのみ使用可能です。刈高が25mmを超える場合には、高刈り用ブラシパーツ番号 110-1740を使用してください。**5 高刈り用ブラシオプション機器の取り付け (ページ 14)**を参照してください。

後ローラブラシ・キット Model 03668 は以下の製品に対して使用することができます

リールマスター5210 および 5410 トラクションユニット用カッティングユニットモデル 03661, 03694 および 03695

後ローラブラシ・キット Model 03688 は以下の製品に対して使用することができます

- リールマスター5510 および 5610 トラクションユニット用カッティングユニットモデル 03681, 03682, 03693, 03696 および 03697
- リールマスター6500 および 6700 トラクションユニット用カッティングユニットモデル 03863, 03864, 03698 および 03699

注 グルーマキットとブラシキットの両方をカッティングユニットに取り付ける場合には、グルーマキットを先に取り付けてください。



ローラブラシの取り付け方向を確認する

必要なパーツはありません。

手順

どのカッティングユニットも、カウンタウェイトをカッティングユニットの左側に取り付けて出荷しています。ローラブラシ駆動部およびリールモータの位置を、以下の図で確認してください。

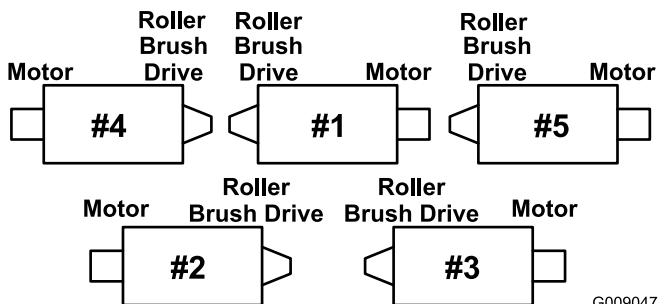


図 1

注 この説明書では、カッティングユニットの左側にカウンタウェイトを取り付ける場合を例にして、キットの取り付け手順を解説します。

2

アイドラプーリ・アセンブリの位置を変更する

必要なパーツはありません。

手順

左前と左後のカッティングユニットについては、カッティングユニットの **右側** にアイドラプーリがくるよう、以下の手順で取り付け位置を変更してください **図 2**

1. カッティングユニットの左側からアイドラプーリ・アセンブリを取り外し、カッティングユニット右側にあるブラシプレートについている低い方の穴に取り付ける **図 2**。

注 アイドラプーリが自由にピボット動作することを確認してください アイドラピボット・ボルトを締めすぎない注意が必要です。

2. キャリッジボルトとナットを外し、以前にアイドラプーリ・アセンブリが取り付けてあった上穴にこれらを移動させる **図 2**。

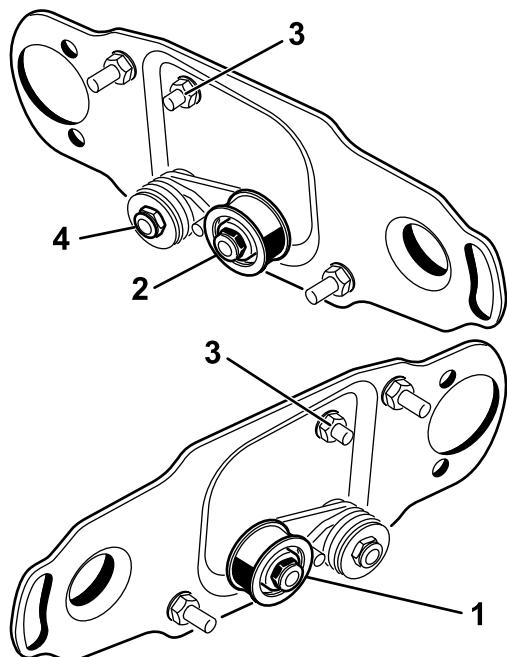


図 2

- | | |
|------------------------|-----------------------------|
| 1. リール左側でのアイドラプーリの取り付け | 3. キャリッジボルトとナット |
| 2. リール右側でのアイドラプーリの取り付け | 4. このロックナットを締めすぎないように注意すること |

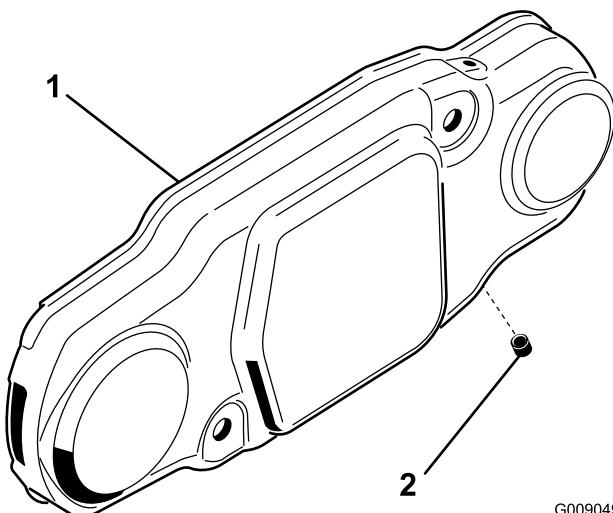
3

ブラシカバーのドレンプラグをはずす

必要なパーツはありません。

手順

下側のドレンプラグ **図 3**のみを、ブラシカバーから外してください。これにより、ベルト部から水分を逃がします。



G009049
g009049

図 3

1. ブラシカバー

2. 下側のドレンプラグ

4

ローラブラシを取り付ける

この作業に必要なパーツ

1	ローラブラシハウジンググルーマなしで使用するためのもの
2	六角穴ボルト, 3/8 x 1 inグルーマなしで使用するためのもの
1	ローラブラシ・アセンブリ
1	ショルダボルト
1	ベルトカバー/プレートアセンブリ
2	ボルト, 5/16 x 5/8 in
1	スペーサグルーマなしで使用するためのもの
1	駆動ブーリ
1	フランジヘッドボルト, 3/8 x 2 in
1	ベルト
1	Oリング黄色グルーマなしで、ブラシ・キット 03668 のみで使用する場合のもの
1	シムワッシャ必要に応じてベルトの整列に使用

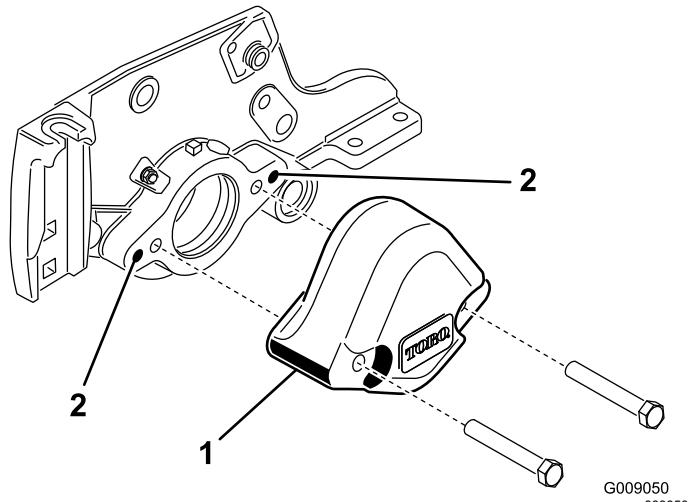


図 4

1. カウンタウェイト
 2. これらの取り付け穴をきれいにする
-
4. 3/8-16 タップを使って、サイドプレートの取り付け穴の内壁のペイントを除去する。図 4。
 5. Model 03668 ローラブラシ・キットの場合には、ローラブラシハウジングに黄色の O リングをはめる図 5。

注 Model 03688, ローラブラシ・キットの場合には、黒い O リングが既にはめてあるのでそれを使う。

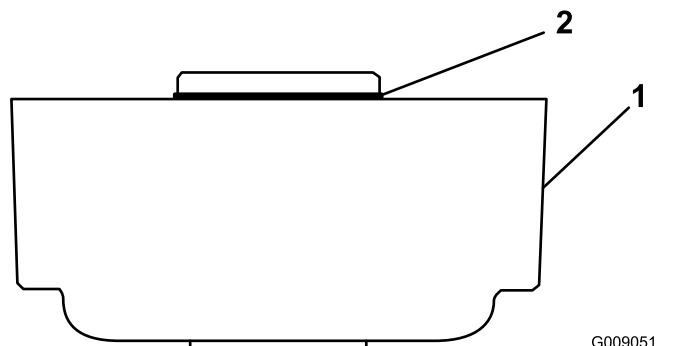


図 5

1. ローラブラシハウジング
 2. 黄色の O リング Model 03668
黒の O リング Model 03688
-

グルーマの付いていないカッティングユニットにブラシを取り付ける場合

カッティングユニットにグルーマが取り付けられていない場合には、以下の手順で行ないますカッティングユニットにグルーマが取り付けられている場合は、[グルーマの付いているカッティングユニットにブラシを取り付ける場合 \(ページ 10\)](#)取り付け要領へ進んでください。

1. 平らな場所に停車して駐車ブレーキを掛ける。
2. カッティングユニットが OFF になっていることを確認する。エンジンを止め、キーを抜き取る。全部のカッティングユニットをトラクションユニットから外す。

重要 カッティングユニットを希望の刈高および姿勢下刃角度にセットする。必要に応じて、後ローラブラシの取り付け前に、オペレーターズマニュアルにしたがってカッティングユニットの再設定を行なってください。

3. カウンタウェイトをカッティングユニットの左側に固定しているボルト2本を外す。カウンタウェイトを取り外す図 4。

6. 六角穴ボルト 2 本 $3/8 \times 1$ inch を使用して、ローラブラシハウジングをリールベアリングハウジングに取り付ける図 6。ローラブラシハウジングは、ねじ切りしてある穴がカッティングユニットの前側にくるように取り付ける。

注 ローラブラシハウジングにOリングが正しい向きで取り付けられていることを確認する。

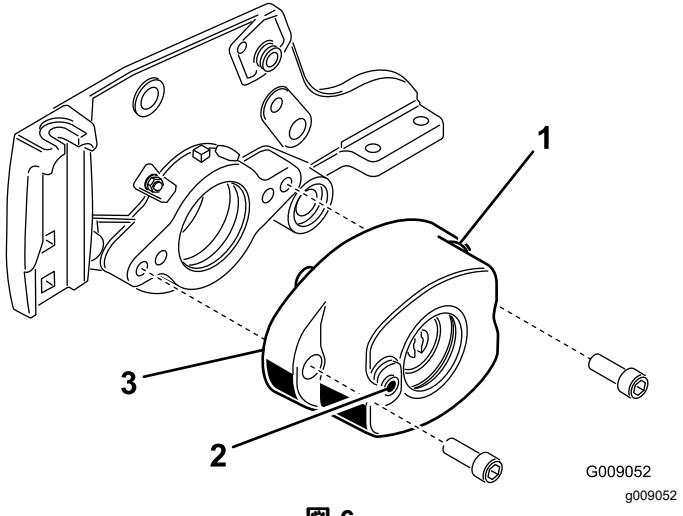
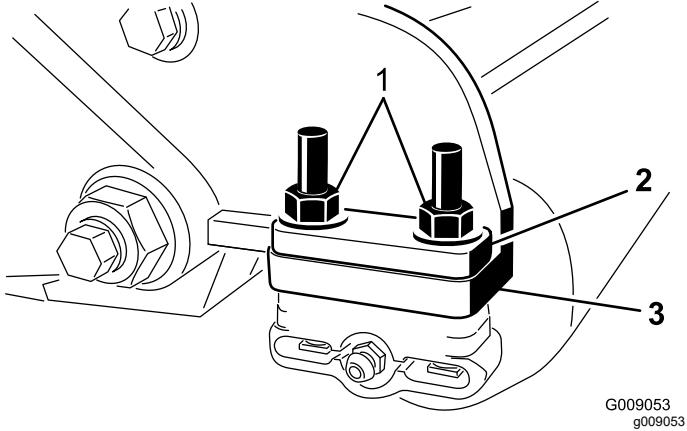


図 6

1. ローラブラシハウジング
2. ハウジングに開けてあるねじ穴
3. 黄色の O リング Model 03668
黒の O リング Model 03688
7. 各ローラブラケットをサイドプレートに固定している 2 本のフランジロックナットを外す図 7。

注 ボルトは外さないでください。また、サイドプレート取り付けフランジの上部についている 6mm スペーサはすべて取り外してください。



1. ローラのそれぞれの端部に付いているナットを外す。
2. 6mm スペーサ
3. サイドプレートの取り付けフランジ
8. ローラブラシ・アセンブリ取り付けブラケットを、ローラブラケットボルトにセットする図 8。ブラシ

アセンブリ取り付けブラケットを、カッティングユニットのサイドプレートに固定する先ほど取り外したナットを使用。

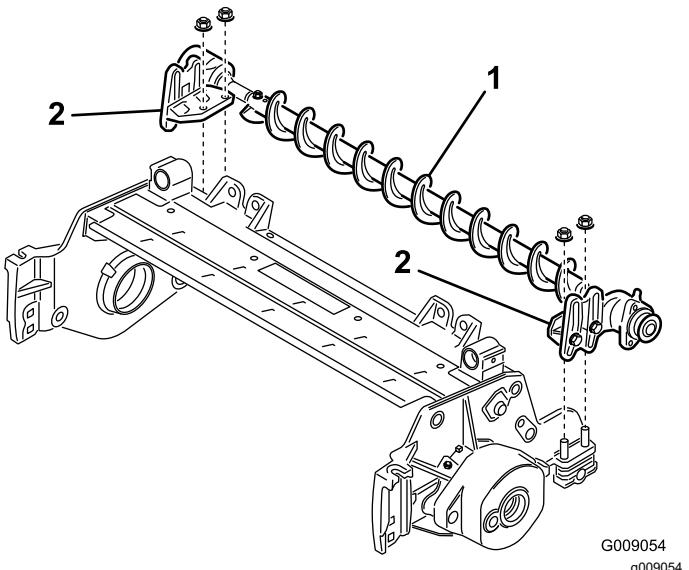


図 8

1. ローラブラシ・アセンブリ
2. ローラブラシ取り付けブラケット

重要 ローラブラシ・アセンブリ取り付けブラケットは、カッティングユニットのサイドプレート取り付けフランジの上面に直接固定する必要があります。ローラブラシ取り付けブラケットとサイドプレート取り付けフランジとの間にスペーサなどを挟まないでください。ローラブラシ取り付けブラケットの上部に、追加の 6mm スペーサを取り付けてください 図 9。

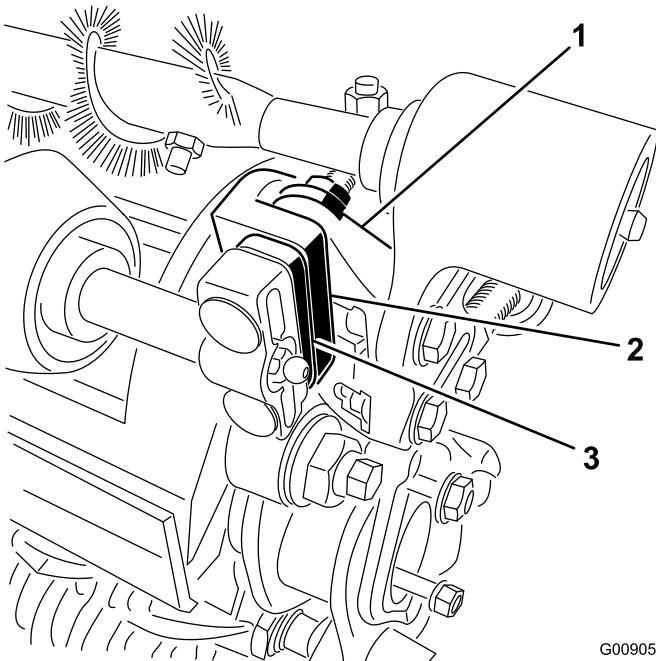


図 9

1. ローラブラシ取り付けブラケット
2. カッティングユニットのサイドプレート取り付けフランジ
3. 追加の 6mm 1/4 インチスベース

9. 各エクスクルーダシールを外側にずらし、シールのリップがそれぞれのベアリングハウジングに軽く接触するようにする図 10。

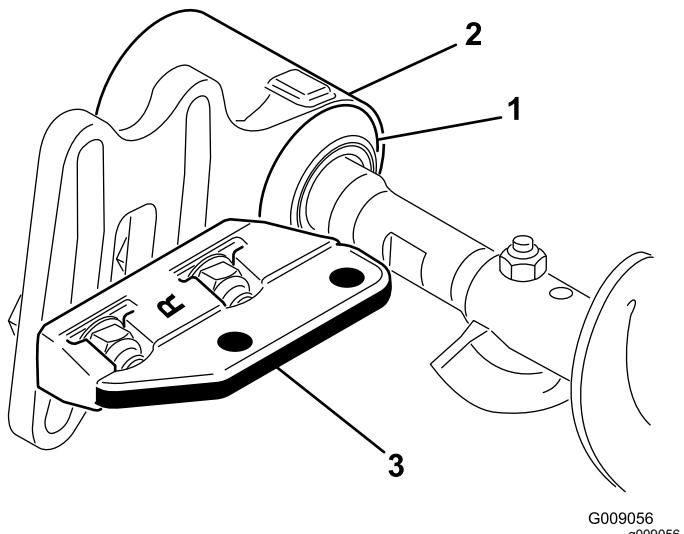


図 10

1. エクスクルーダシール
2. ベアリングハウジング
3. 取り付けブラケット

10. ベアリングハウジングのグロメットの内側にグリスを塗る図 11。

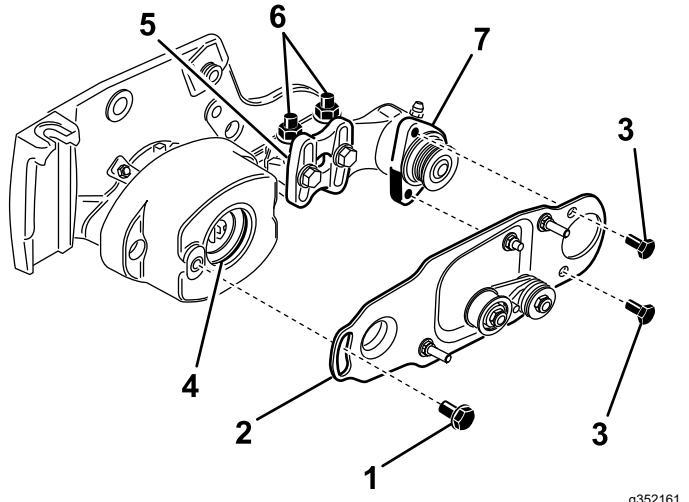


図 11

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. ショルダーボルト | 5. ローラブラシ取り付けブラケット |
| 2. ブラシプレート | 6. フランジロックナット |
| 3. ボルト | 7. ローラブラシベアリングハウジング |
| 4. ベアリングハウジングのグロメット | |

11. ローラブラシ取り付けブラケットに固定しているボルトをゆるめる 但し外さないこと図 11。
12. ローラブラシピボットプレートを取り付ける図 11。ピボットプレートの突起部をベアリングハウジングのグロメットに差し込んだ時、グロメットの位置がずれないように注意すること。

注 ローラブラシ・ピボットプレートを動作させたときにグロメットゴムからの抵抗がまったくなく、自由にピボット動作できれば、取り付けは適切です。

13. 5/16 x 5/8 in ボルト2本に 242 ロクタイト青を塗り、これを使ってブラシプレートをローラブラシベアリングハウジングに取り付ける図 11。ボルトを 20-26 N·m にトルク締めする。
14. ローラブラシプレートがカッティングユニットのサイドプレートに平行になっているかどうか点検する。平行でない場合は、以下の作業を行う
- ローラブラシ取り付けブラケットをカッティングユニットのサイドプレートに固定しているフランジナット2個をゆるめる図 11。
 - ブラシプレートがカッティングユニットユニットのサイドプレートに平行になるまでローラブラシベアリングハウジングを回転させる図 11。
 - ローラブラシ取り付けブラケットをカッティングユニットのサイドプレートに固定しているフランジナット2個を締め込む図 11。
15. 各ローラブラシ・ベアリングハウジングをローラブラシ取り付けブラケットに固定しているボルト2本をゆるめる図 12と図 13。

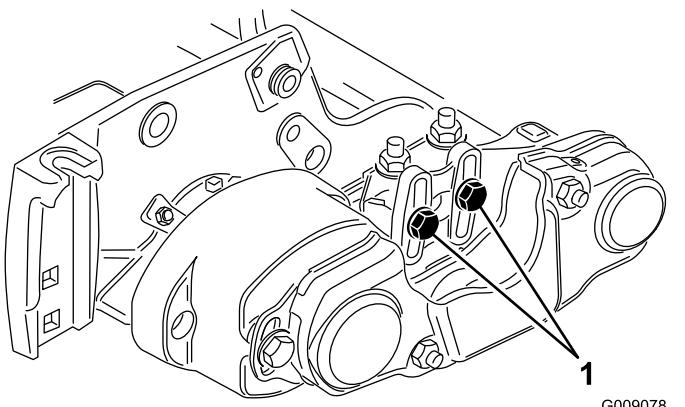


図 12

G009078
g009078

1. これらのボルトをゆるめる。

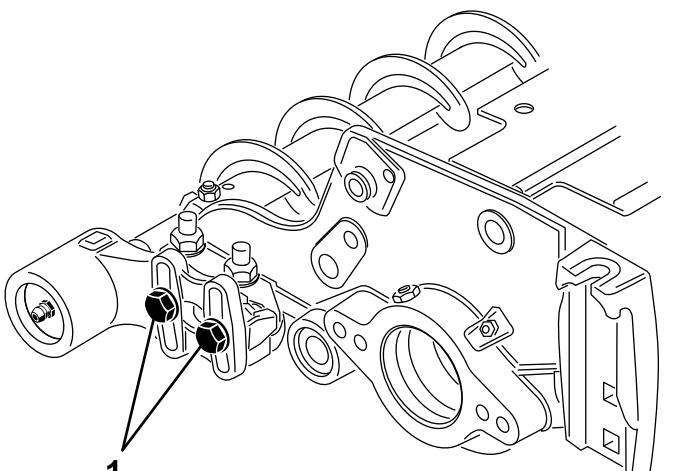


図 13

G009079
g009079

1. これらのボルトをゆるめる。

16. ローラブラシが、後ローラに軽く接触するローラに軽く載った状態になるようにローラブラシの位置を決める図 14。

重要ローラブラシのシャフトがカッティングユニットのサイドプレートに接触してはいけません。

重要ローラとブラシが強く接触しすぎると、ブラシが早く磨耗してしまいます。

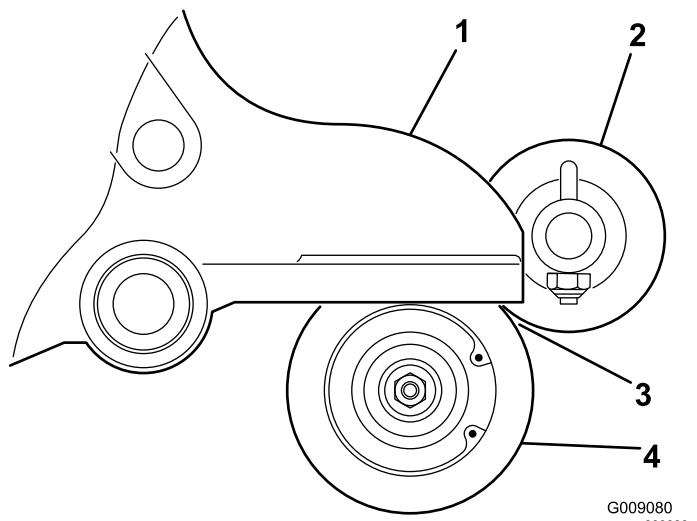


図 14

G009080
g009080

1. サイドプレート
2. ローラブラシ
3. 軽い接触
4. 後ローラ
5. ここにすき間をつくること。

注 ローラブラシのシャフトが後ローラに対して平行でなければいけません。

注 非駆動側のローラブラシベアリングハウジングの取り付け向きは、駆動側ハウジングと同じ向きでなければいけません。

17. 各ローラブラシベアリングハウジングをローラブラシ取り付けブラケットに固定しているボルト各 2 本を締め付ける。
18. ショルダボルトにロクタイト242青を塗布する図 11。ショルダボルトを使って、ブラシプレートをローラブラシハウジングに取り付ける。(図 11). ボルトを 20-26 N·m にトルク締めする。

注 ショルダボルトがプレートをハウジングに対して締め付けてはいけません。

19. ベアリングハウジングのシャフトにスペーサを挿入する図 15。
20. スペーサに駆動プーリを取り付けて駆動シャフトに通す図 15。プーリのタブが駆動シャフトのスロットにきっちりと嵌まるように取り付けること。
21. フランジヘッドボルト 3/8 x 2 inch を使ってプーリとスペーサを駆動シャフトに固定する図 15。ボルトを 47-54 N·m (35-40 ft-lb = 4.8-5.5 kg.m) にトルク締めする。

重要ボルトが正しくトルク締めされていないと、ボルトがゆるんできます。

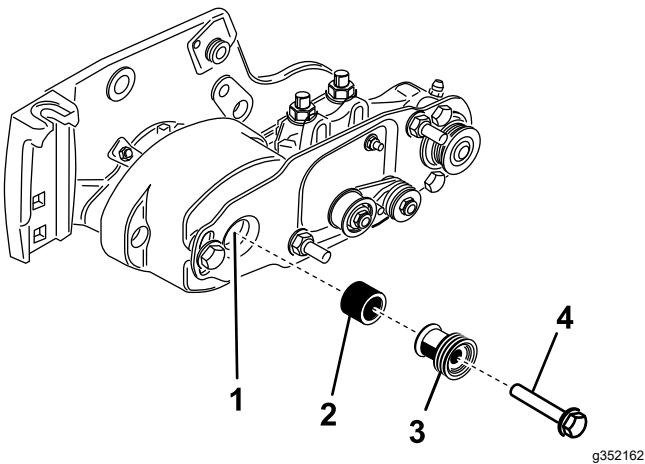


図 15

- | | |
|-----------|---|
| 1. 駆動シャフト | 3. 駆動プーリ |
| 2. スペーサ | 4. ボルトを47-54 N·m35-40 ft-lb = 4.8-5.5 kg.mにトルク締めする。 |

22. 以下の手順で、プーリにベルトを取り付ける
- 受動プーリにベルトを回しかけ、次にアイドラプーリに上からベルトを掛ける図 16。

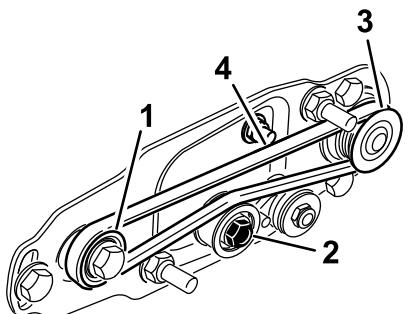


図 16

- | | |
|-----------------|----------|
| 1. 駆動プーリ | 3. 受動プーリ |
| 2. アイドラプーリアセンブリ | 4. ベルト |

- 駆動プーリを回してベルトを回転させる図 16。
- 駆動プーリからベルトが外れないようにしながらリールを前転させて駆動プーリ全体にベルトを掛ける。

注 リールを回すときにはパッドのついている手袋や厚いウェスなどを使用すること。

重要 ベルトのリブを各プーリに正しくはめ込んでください。また、ベルトがアイドラプーリの中心を通るようにセットしてください。

23. アイドラプーリを手で押し下げて、アイドラプーリ・アセンブリが自由にピボット動作することを確認する。
24. ベルトとプーリの整列を以下の要領で点検する
- ベルトの整列は、ベルトが適切な張りに調整取り付けられた状態で行なう。

- 駆動プーリの外側面に直定規を当てる図 17。駆動プーリと受動プーリの両方に直定規を当てないこと。
 - 駆動プーリと受動プーリの外側面が面一であること誤差 0.76mm以内。
 - プーリが整列していない場合には、[プーリの整列 \(ページ 16\)](#)を参照。
 - 整列している場合には、取り付けを続ける。
 - アイドラプーリで調整を行ってはならない。
- 重要** プーリが正しく整列していないと、ベルトが早期に破損する恐れがある。

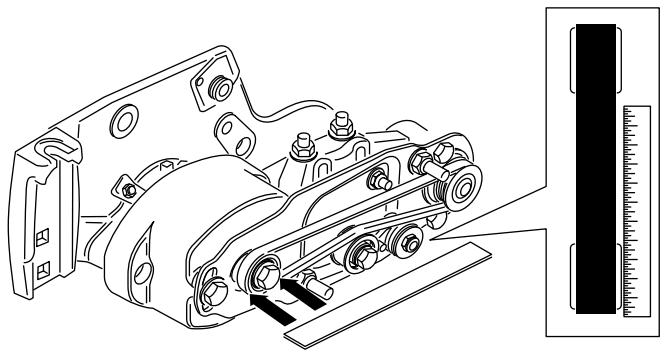


図 17

25. ベルトカバーを取り付けボルトに取り付けてフランジナット2個で固定する図 18。

重要 ナットを締め付けすぎるとカバーが破損するので注意すること。

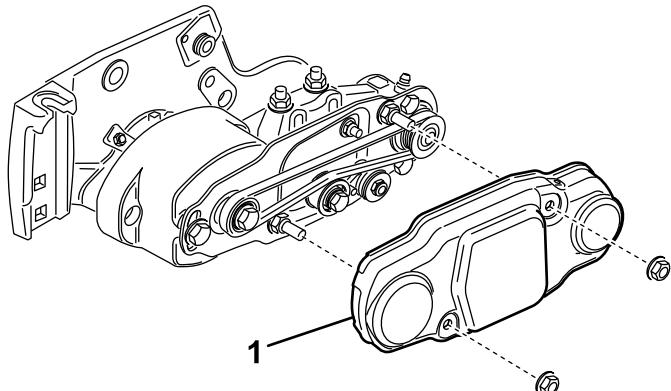
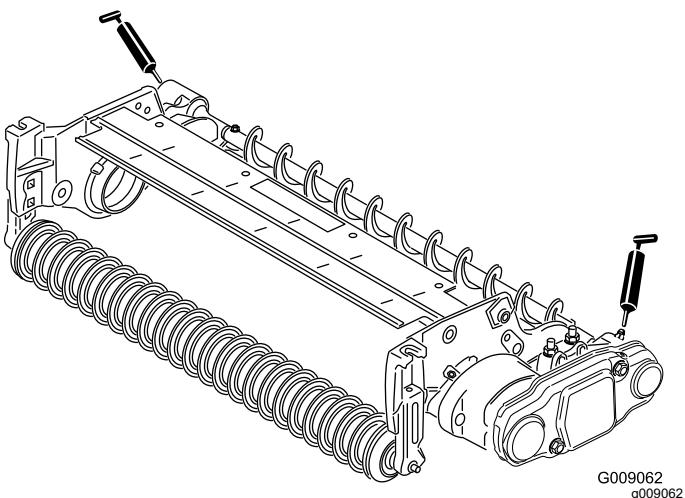


図 18

- | |
|-----------|
| 1. ベルトカバー |
|-----------|
26. 左右のローラブラシ・ベアリングハウジングのグリス注入部、および、カッティングユニットの他のグリス注入部に、No.2汎用リチウム系グリスを注入する図 19。はみ出したグリス、特にエクスクルーダシールの周囲のグリスはよくふき取る。



19

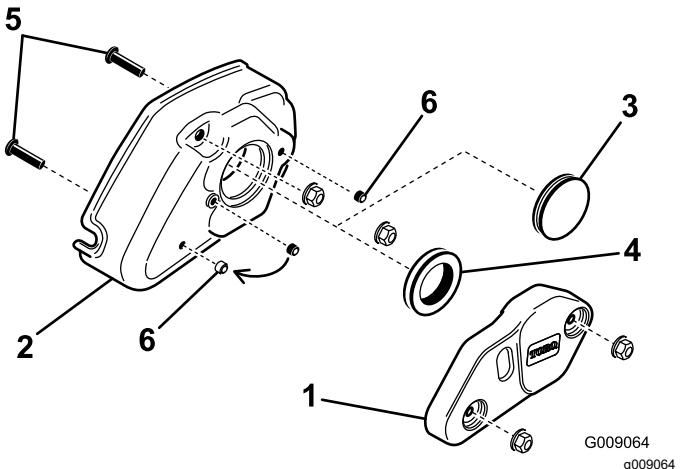
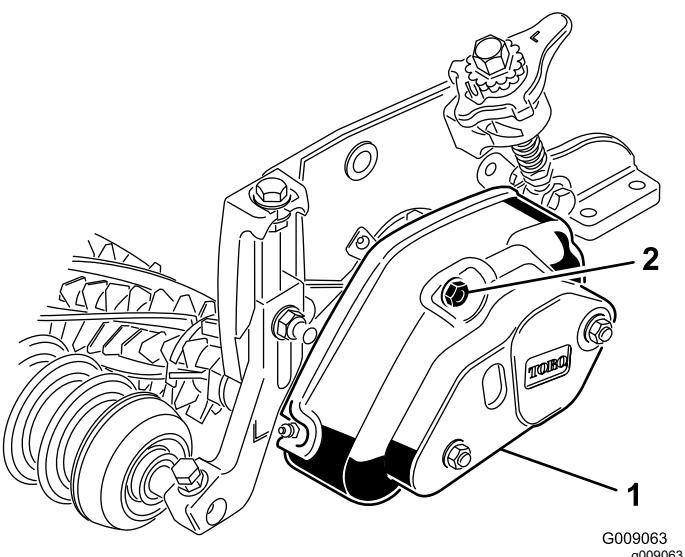


图 21

1. グルーマウェイト外す
 2. グルーマカバー
 3. むくのグロメット外す
 4. ゴム製のグロメットリング
 5. カバーねじ取り外す
 6. 固定ねじ2本

 3. カバーについているむくのハトメを取り外してゴム製のグロメットリングに交換する図21。
 4. カバーにねじ込んである $5/16 \times 1-1/4$ ねじ2本を取り外す図21。
 5. グルーマカバーのセンター穴から固定ねじを取り外す図21。



文 20

1. グルーマカバー
 2. カバー取り付けナット2個
 2. グルーマのウェイトをグルーマカバーに固定している 5/16 in フランジナット2個を外してウェイトを取り外す 図 21。

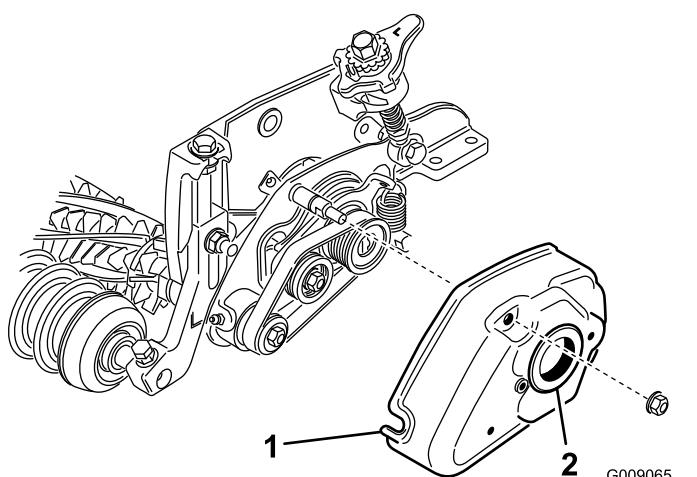


图 22

1. グルーマカバー
 2. グロメット

 6. 先ほど取り外した固定ねじ、およびグルーマキットの付属品に入っている固定ねじを、先ほどまでカバー取り付けねじに使っていた穴に取り付ける。取り付ける前に、ねじ山部分にロクタイト242 青を塗りつける。

注 固定ねじはグルーマカバーと面一にならなければいけません。

 7. グルーマカバーを取り付けて 5/16 in フランジナット2個で固定する**図 22**。

重要ナットを締めすぎないようにすること。

8. グロメットカバーについているグロメットの内側にグリスを塗る図 22。
9. 各ローラブラケットをサイドプレートに固定している2個のナットを外す図 23。ボルトは外さないこと。

注 サイドプレート取り付けフランジの上部についている6mmスペーサはすべて取り外してください。

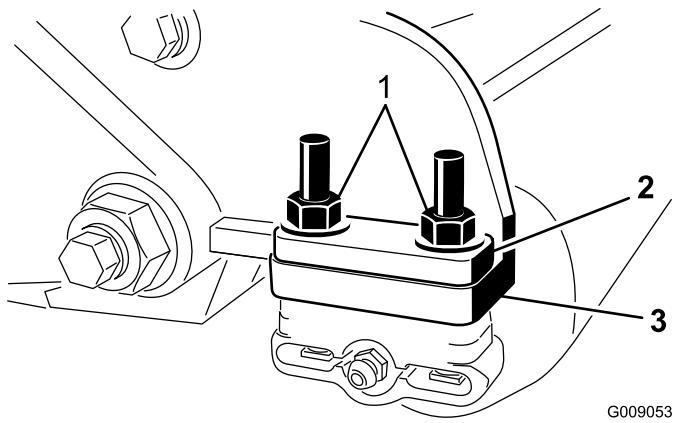


図 23

G009053
g009053

1. ローラのそれぞれの端部に 3. サイドプレートの取り付けついているナットを外す。
2. 6mm スペーサ
10. ローラブラシ・アセンブリ取り付けブラケットを、ローラブラケットボルトにセットする図 24。ブラシアセンブリ取り付けブラケットを、カッティングユニットのサイドプレートに固定する先ほど取り外したナットを使用。

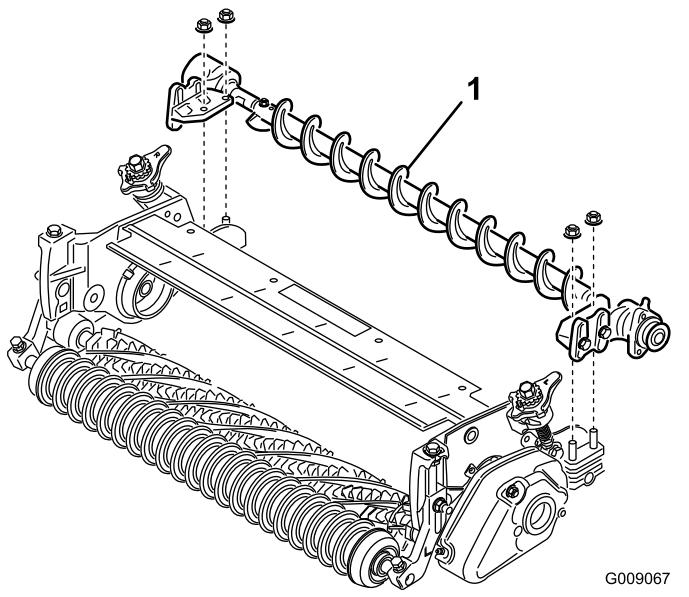


図 24

1. ローラブラシ・アセンブリ

重要 ローラブラシ・アセンブリ取り付けブラケットは、カッティングユニットのサイドプレート取り付けフランジの上面に直接固定する必要があります。

ローラブラシ取り付けブラケットとサイドプレート取り付けフランジにスペーサなどを挟まないでください。ローラブラシ取り付けブラケットの上部に、追加の 6mm スペーサを取り付けてください図 25。

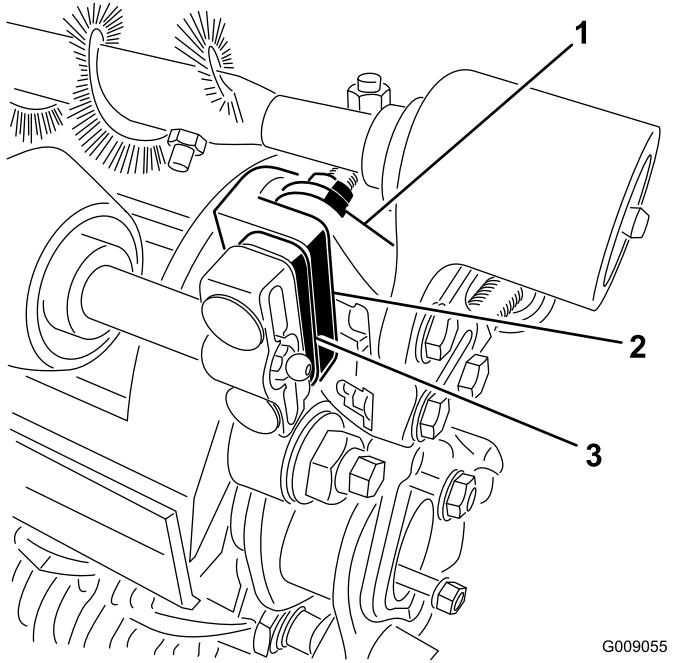


図 25

G009055
g009055

1. ローラブラシ取り付けブラケット
2. カッティングユニットのサイドプレート取り付けフランジ
3. 追加の 6mm 1/4 インチスペーサ

11. 各エクスクラーダシールを外側にずらし、シールのリップがそれぞれのベアリングハウジングに軽く接触するようにする図 26。

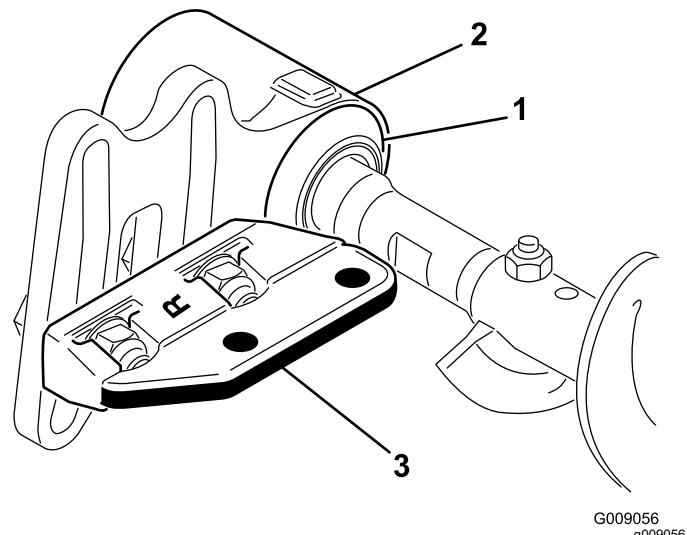


図 26

G009056
g009056

1. エクスクラーダシール
2. ベアリングハウジング
3. 取り付けブラケット

12. ローラブラシベアリングハウジングをローラブラシ取り付けブラケットに固定しているボルトをゆるめる 但し外さないこと 図 27。
13. ローラブラシピボットプレートを取り付ける 図 27。ピボットプレートの突起部をグルーマカバーのグロメットに差し込んだ時、グロメットがカバーに正しく着座しているように注意すること。

注 ローラブラシ・ピボットプレートを動作させたときにグロメットゴムからの抵抗がまったくなく、自由にピボット動作できれば、取り付けは適切です。

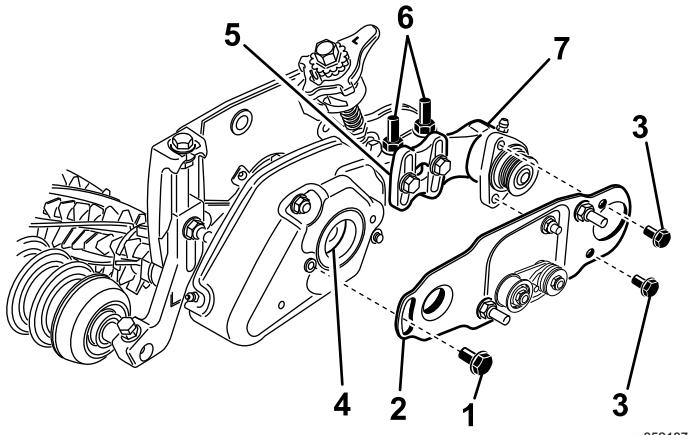


図 27

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. ショルダボルト | 5. ローラブラシ取り付けブラケット |
| 2. ブラシプレート | 6. フランジロックナット |
| 3. ボルト | 7. ローラブラシベアリングハウジング |
| 4. ベアリングハウジングのゴムメット | |

14. 5/16 x 5/8 in ボルト2本に 242 ロクタイト青を塗り、これを使ってブラシプレートをローラブラシベアリングハウジングに取り付ける 図 27。ボルトを 20-26 N·m にトルク締めする。
15. ローラブラシプレートがカッティングユニットのサイドプレートに対して平行であることを確認する。もし平行でない場合には以下の手順で調整する
 - ローラブラシ取り付けブラケットをカッティングユニットのサイドプレートに固定しているフランジナット2個をゆるめる 図 27。
 - ブラシプレートがカッティングユニットユニットのサイドプレートに平行になるまでローラブラシベアリングハウジングを回転させる 図 27。
 - ローラブラシ取り付けブラケットをカッティングユニットのサイドプレートに固定しているフランジナット2個を締め込む 図 27。
16. 各ローラブラシ・ベアリングハウジングをローラブラシ取り付けブラケットに固定しているボルト2本をゆるめる 図 12と図 13。

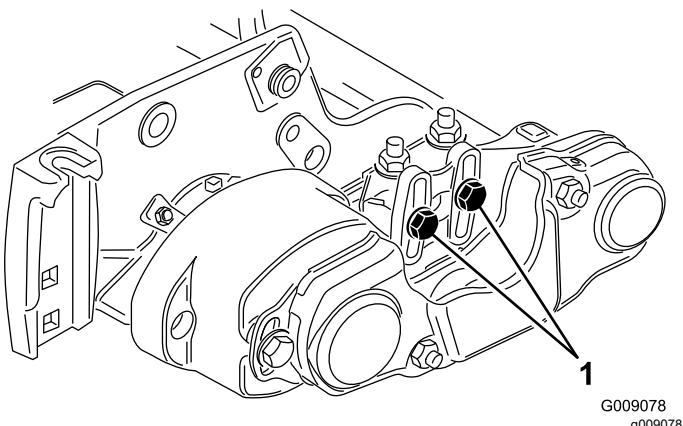


図 28

1. これらのボルトをゆるめる。

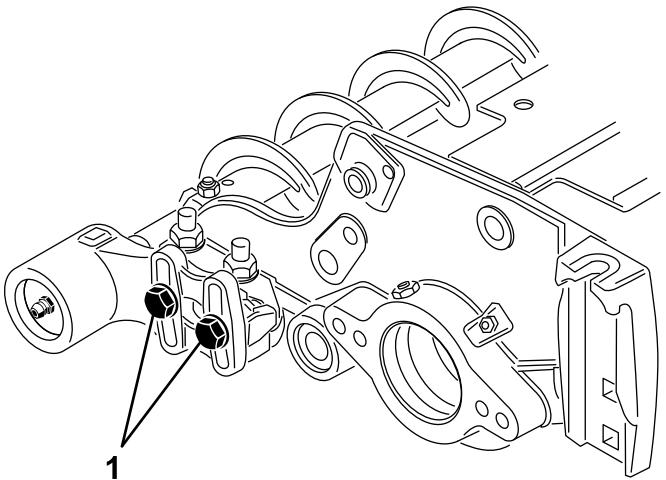


図 29

1. これらのボルトをゆるめる。

17. ローラブラシが、後ローラに軽く接触するローラに軽く載った状態になるようにローラブラシの位置を決める 図 14。

重要 ローラブラシのシャフトがカッティングユニットのサイドプレートに接触してはいけません。

重要 ローラとブラシが強く接触しすぎると、ブラシが早く磨耗してしまいます。

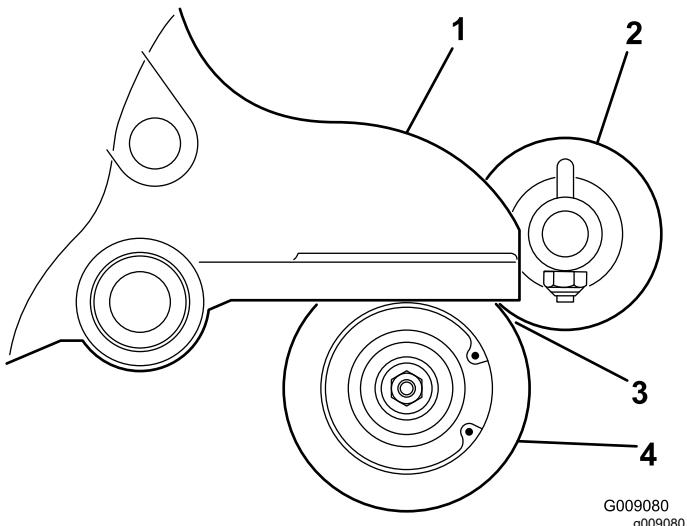


図 30

1. サイドプレート
2. ローラブラシ
3. 軽い接触
4. 後ローラ
5. ここにすき間をつくること。

注 ローラブラシのシャフトが後ローラに対して平行でなければいけません。

注 非駆動側のローラブラシベアリングハウジングの取り付け向きは、駆動側ハウジングと同じ向きでなければいけません。

18. 各ローラブラシベアリングハウジングをローラブラシ取り付けブラケットに固定しているボルト各2本を締め付ける。
19. ショルダボルトにロクタイト242青を塗布する図27。ショルダボルトを使って、ブラシプレートをグルーマカバーに取り付ける。(図27)。ボルトを20-26 N·mにトルク締めする。

注 ショルダボルトがプレートをハウジングに対して締め付けてはいけません。

20. グルーマブーリーを駆動シャフトに固定しているボルトを取り外す図31。
21. ブラシ駆動ブーリーをグルーマ駆動ブーリーに差し込んで駆動シャフトに通す図31。ブーリーのタブが駆動シャフトのスロットにきっちりと嵌まるよう取り付けること。
22. フランジヘッドボルト3/8 x 2 inを使って駆動ブーリーをシャフトに固定する図31。ボルトを4754N·m(4.85.5kg.m = 3540ft-lb)にトルク締めする。

重要ボルトが正しくトルク締めされていないと、ボルトがゆるんできます。

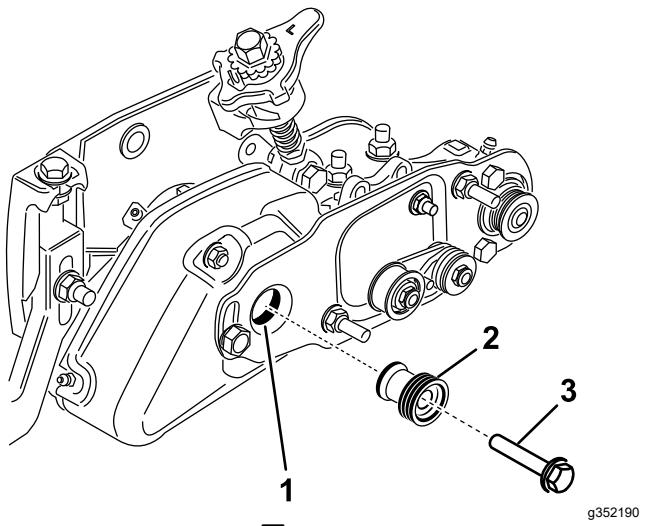


図 31

1. グルーマブーリー取り付けボルト取り外す
2. 駆動ブーリー
3. ボルト4754N·m3540ft-lb = 4.85.5kg.mにトルク締めする

23. 以下の手順で、ブーリーにベルトを取り付ける

- 受動ブーリーにベルトを回しかけ、次にアイドラブーリーに上からベルトを掛ける図32。

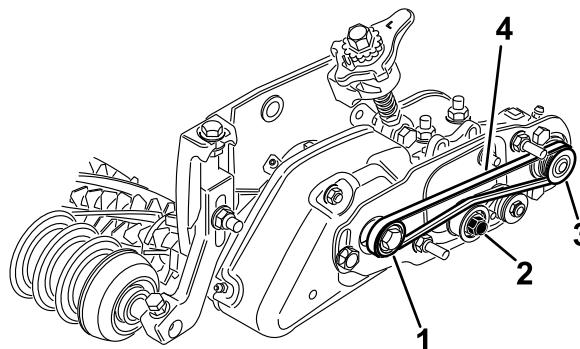


図 32

1. 駆動ブーリー
2. アイドラブーリーセンブリ
3. 受動ブーリー
4. ベルト

- 駆動ブーリーを回してベルトを回転させる図32。
- 駆動ブーリーからベルトが外れないようにしながらリールを前転させて駆動ブーリー全体にベルトを掛ける。

注 リールを回すときにはパッドのついている手袋や厚いウェスなどを使用すること。

重要ベルトのリブを各ブーリーに正しくはめ込んでください。また、ベルトがアイドラブーリーの中心を通るようにセットしてください。

24. アイドラブーリーを手で押し下げて、アイドラブーリー・センブリが自由にピボット動作することを確認する。

25. ベルトとプーリの整列を以下の要領で点検する
- ・ ベルトの整列は、ベルトが適切な張りに調整取り付けられた状態で行なう。
 - ・ **駆動プーリの外側面に直定規を当てる図33**。駆動プーリと受動プーリの両方に直定規を当てないこと。

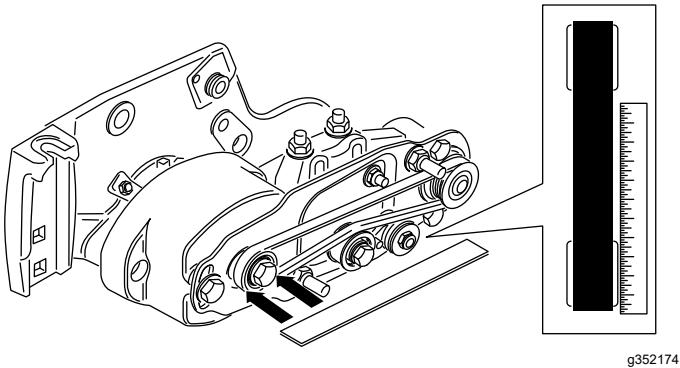


図 33

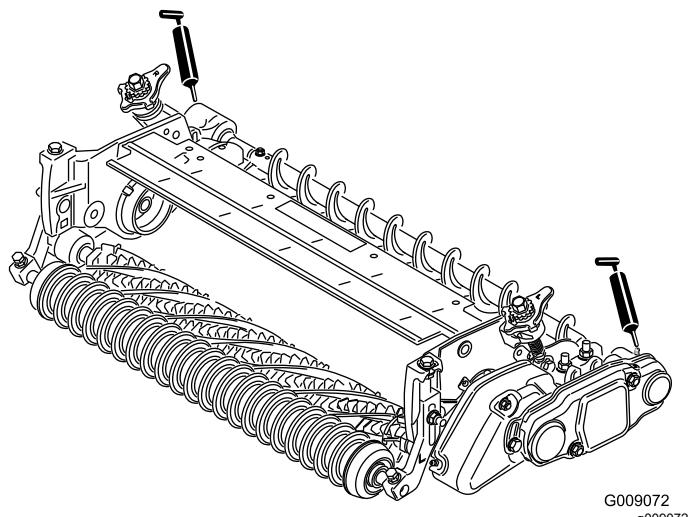


図 35

- ・ 駆動プーリと受動プーリの外側面が面一であること誤差 0.76 mm以内。
 - ・ 整列していない場合には、「プーリの整列」を参照。
 - ・ 整列している場合には、取り付けを続ける。
 - ・ アイドラプーリで調整を行ってはならない。
- 注** プーリが正しく整列していないと、ベルトが早期に破損する恐れがある。
26. ベルトカバーを取り付けボルトに取り付けてフランジナット2個で固定する図34。

重要ナットを締め付けすぎるとカバーが破損するので注意すること。

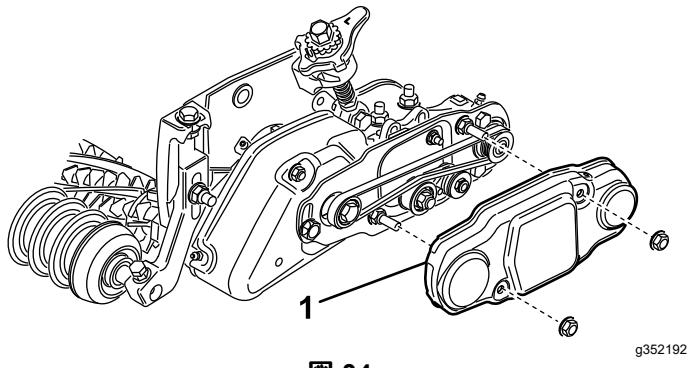


図 34

1. ベルトカバー

27. 左右のローラブラシベアリングハウジングのグリス注入部、および、カッティングユニットのその他のグリス注入部に、No.2汎用リチウム系グリスを注入する図35。

注 はみ出したグリス、特にエクスクルーダシールの周囲のグリスはよくふき取る。

5

刈込用ブラシオプション機器の取り付け

必要なパーツはありません。

手順

刈高設定が 25mm を超える場合サイドプレートのパッドの下のスペーサが5枚以上になる場合には、刈込ブラシパーツ番号 110-1740を取り付けてください。

1. カッティングユニットにローラブラシが取り付けられている場合には、非駆動側ベアリングハウジングをベアリングハウジング取り付けブラケットに固定しているボルト2本を外す図36と図37。

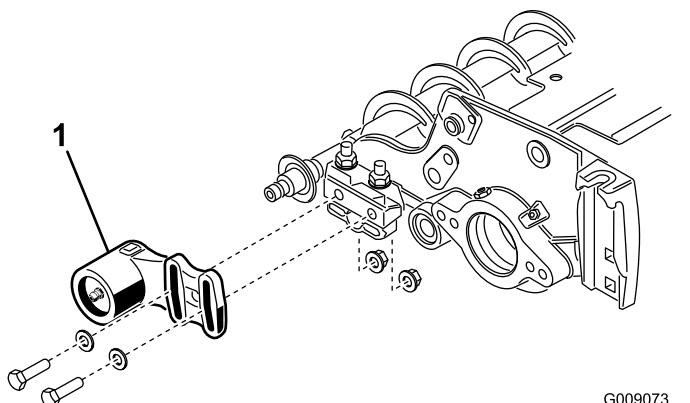


図 36

1. 非駆動側ベアリングハウジング

2. 非駆動側ベアリングハウジングとエクスクルーダシールをシャフトから取り外す図37。

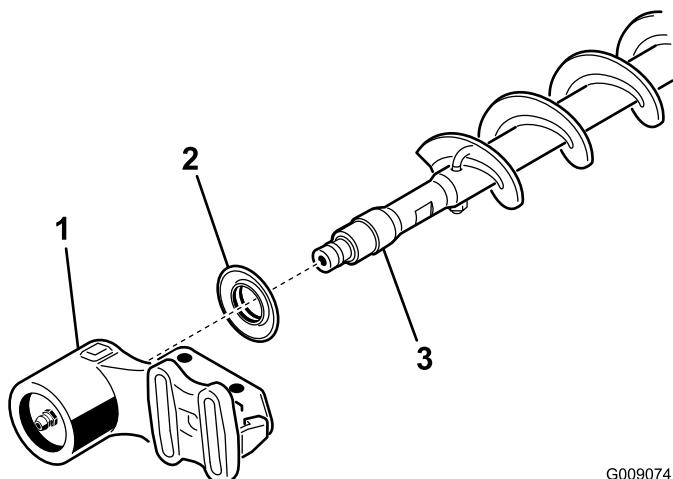


図37

1. 非駆動側ベアリングハウジング
2. エクスクルーダシール

3. ボルトとナット各2を外す図38。
4. ブラシシャフトについている既存のブラシを抜き取る図38。
5. 駆動側ベアリングハウジングをベアリングハウジング取り付けブラケットに固定しているボルト各2本とワッシャおよびナットをゆるめる図38。
6. ブラシシャフトに、高刈り用ブラシを取り付ける図38。
7. 先ほど外したJボルトとナット各2を使って、ブラシをシャフトに固定する図38。

重要ボルトのねじ切りされている側を、ブラシシャフトの外側の穴に通し、字に曲がっている側を内側の穴に引っ掛ける。

8. Jボルトのロックナットを2-3 N·m 20-25 in-lb=0.23-0.29 kg.mにトルク締めする。

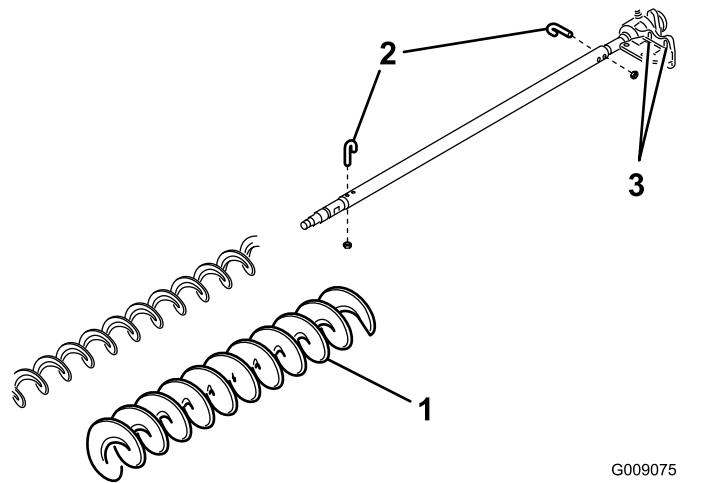


図38

G009074
g009074

G009075
g009075

1. 高刈り用ブラシ
2. ボルト
3. これらのボルトをゆるめる。

9. 非駆動側ベアリングハウジングとエクスクルーダシールをブラシシャフトに取り付ける図37。
10. 先ほど外したボルト2本とワッシャおよびナットを使って、非駆動側ベアリングハウジングをベアリングハウジング取り付けブラケットに固定する。シールスプリングを落とさないように注意すること。
11. 駆動側ベアリングハウジングをベアリングハウジング取り付けブラケットに固定しているボルト各2本とワッシャおよびナットを締め付ける。

保守

1. ブラシがローラと平行になっていること、そしてローラとの間のすき間が、1.5 mm で軽い接触があることを確認する。
2. 50 運転時間ごと、また、機体を洗浄したときはその直後にグリスアップを行なう。
3. ローラブラシを交換した場合には、Jボルトを 2-3 N·m20-25 in-lb=0.23-0.29 kg.mにトルク締めする。
4. ブラシシャフトの受動プーリを交換した場合には、ナットを 37-45 N·m3.7-4.5 kg.mにトルク締めする。
5. ブラシの駆動プーリを交換した場合には、ボルトを 47-54 N·m35-40 ft-lb=4.8-5.5 kg.mにトルク締めする。
6. ローラブラシ、アイドラベアリング、ベルトは消耗部品です。

重要 バックラップをするときの回転速度が不適切であると駆動プーリをゆるめてしまう恐れがあります。バックラップ手順の詳細についてはカッティングユニットのオペレーターズマニュアルを参照してください。

プーリの整列

1. 受動プーリローラのシャフト位置は内外に動かすことができます図 39。プーリをどちらに動かす必要があるのか確認する。

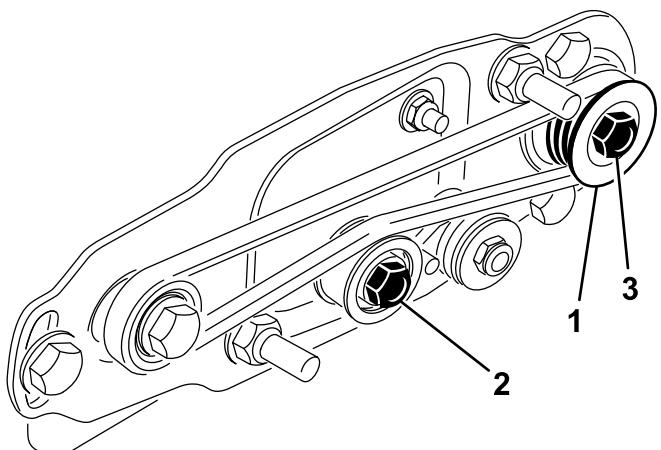


図 39

g352193

1. 受動プーリ
2. アイドラプーリ
3. 受動プーリのナット

2. リールを回しながらつまり駆動プーリを回しながら、駆動プーリからベルトをはずす図 39。

注 リールを回すときにはパッドのついている手袋や厚いウェスなどを使用すること。

3. 受動プーリをブラシシャフトに固定しているロックナットを取り外す図 39または図 40。シャフトが回転しないように、ローラブラシシャフトの平面に 1/2 in レンチを差し込む。
4. シャフトから受動プーリを取り外す図 40。
5. プーリを外側に出したい場合には、0.8 mm0.032 インチ厚のスペーサを1枚入れる図 40。

注 プーリを内側に入れたい場合には、0.8 mm 厚のスペーサを1枚抜き取る。

6. プーリを取り付ける。

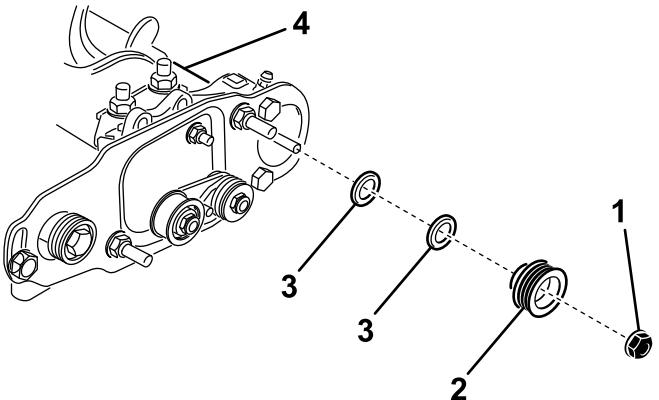


図 40

g351960

1. ロックナット
2. 受動プーリ
3. スペーサ厚さ 0.8mm
4. ブラシシャフトの平面
7. ローラブラシのシャフトの平面を押さえながら、先ほど外したフランジナット3/8-16を使って、プーリをシャフトに固定する。ロックナットをセットし、37-45 N·m3.7-4.6 kg.mにトルク締めする。
8. 以下の手順で、プーリにベルトを取り付ける
 - 受動プーリにベルトを回しかけ、次にアイドラプーリに上からベルトを掛ける図 16。

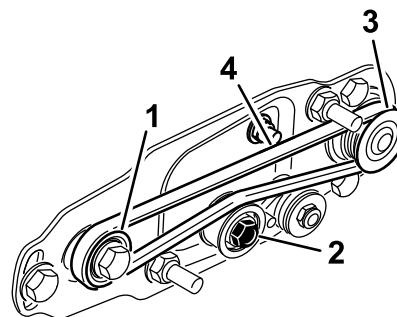


図 41

g352173

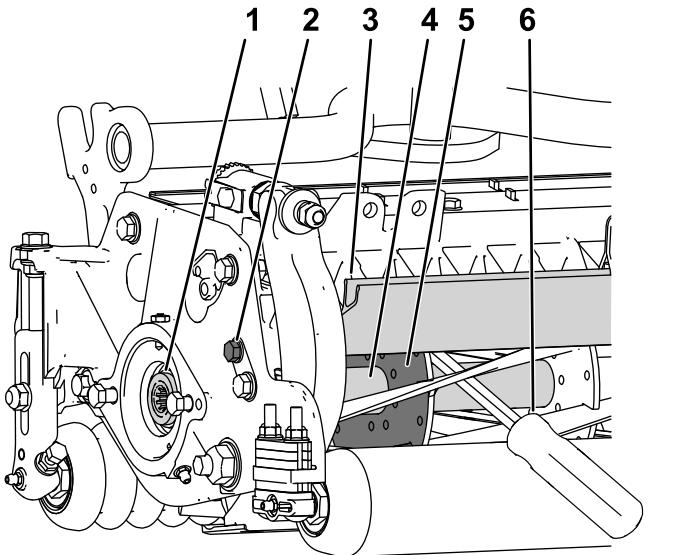
1. 駆動プーリ
2. アイドラプーリアセンブリ
3. 受動プーリ
4. ベルト

- 駆動プーリを回してベルトを回転させる図16。
- 駆動プーリからベルトが外れないようにしながらリールを前転させて駆動プーリ全体にベルトを掛ける。

注 リールを回すときにはパッドのついている手袋や厚いウェスなどを使用すること。

重要 ベルトのリブを各プーリに正しくはめ込んでください。また、ベルトがアイドラプーリの中心を通るようにセットしてください。

9. プーリの整列を確認する。必要に応じて修正してください。



g280383

図 42

1. 取り外すべきねじ山付きインサート
2. シールドのボルトをゆるめる。
3. 後部シールド
4. リールシャフト
5. リール支持プレート
6. リールサポートプレートの溶接側に沿って差し入れたバール。

4. バールの握り部分を後ローラに載せる。
5. バールでリールが確実に止まっていることを確認しながらインサートを外す。作業が終わったらバールを外す。
6. 後シールドを降ろしてシールドボルトを締め付ける。

ねじ付きインサートの着脱のためにリールを固定するには

1. カッティングユニット左側のシールドボルトをゆるめて後シールドを上げる図42。
2. 長い柄のバール9 mm x 30 cm程度のドライバータイプのもの。握りのついているものがよいを用意する。バールは、トルク作業を行う側に近い側で、リールの後ろから差し込むようにする図42。
3. リールサポートプレートの溶接されている側からバールを入れ図42。

注 リールのシャフトの上側と2枚のリール刃の背中側にバールを差し込むと、リールが回転できなくなる。

重要 リールの刃先にバールを触れると刃こぼれなどを起こすバールを当てないように十分注意すること。

重要 カッティングユニット左側のインサートは左ねじです。カッティングユニット右側のインサートは右ねじです。

1. 長い柄のバール9 mm x 30 cm程度のドライバータイプのもの。握りのついているものがよいを用意する。バールは、トルク作業を行う側に近い側で、リールの前から差し込むようにする図43。

2. リール補強版の溶接側からバールを入れる図43と、

注 カッティングユニットの前側で、バールがリール刃、リールシャフト、リールの背面に当たってリールをロックする状態になる。

重要 リールの刃先にバールを触れると刃こぼれなどを起こすバールを当てないように十分注意すること。

重要 カッティングユニット左側のインサートは左ねじです。カッティングユニット右側のインサートは右ねじです。

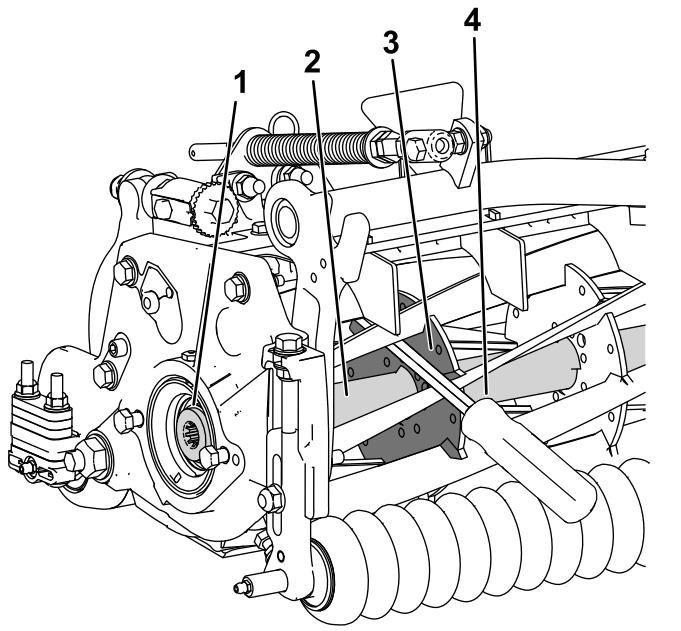


図 43

1. 取り付けるべきねじ山付き
インサート
2. リールシャフト
3. サポートプレートの溶接側
4. バール

-
3. バールの握り部分をローラに載せる。
4. インサートに付属している取り付け要領書に従つて取り付けとトルク締めを行い、リールがバールで確実に固定されていることを確認して取り付けを終了し、最後にバールを外す。

組込宣言書

モデル番号	シリアル番号	製品の説明	請求書の内容	概要	指示
03668	—	リールマスター 5210/5410 シリーズ 5 インチリール カッティングユニット用後 ローラブラシキット	REAR ROLLER BRUSH KIT-RM52/5410	ローラブラシキット	2006/42/EC, 2000/14/EC, 2004/108/EC
03688	—	リールマスター 5510/5610 および 6500-D/6700-D 用 7" リールカッティングユニット搭 載用後ローラブラシキット	REAR ROLLER BRUSH KIT-RM55/5610/6000	ローラブラシキット	2006/42/EC, 2000/14/EC, 2004/108/EC

2006/42/EC別紙VIIパートBの規定に従って関連技術文書が作成されています。

本製品は、半完成品状態の製品であり、国の規制当局の要求があった場合には、弊社より関連情報を送付いたします。ただし、送付方法は電子的通信手段によるものとします。

この製品は、製品に付随する「規格適合証明書」に記載されている承認済みのトロ社製品に取り付けることによって、関連する諸規制に適合するものであり、そのような状態でなければ使用することができません。

確認済み

権限を有する代表者

Marcel Dutrieux
Manager European Product Integrity
Toro Europe NV
Nijverheidsstraat 5
2260 Oevel
Belgium

John Heckel
エンジニアリング担当取締役
8111 Lyndale Ave. South
Bloomington, MN 55420, USA
9月 29, 2021



Count on it.